令和6年度 城南学園小学校 学校評価のまとめ

1. 基本方針

建学の精神「自主自律(強く 正しい)」「清和気品(清く やさしい)」のもと、知・徳・体の調和のとれた円満な人間の育成を目指し、「『チーム城南』で『学びに向かう力』が育つ学校を創る!」を学校経営方針として、「落ち着きと明るさがいっぱい!」「温かいまなざしがいっぱい!」「考える愉しさがいっぱい!」に重点を置き、教 職員一人一人が積極的に関わっていく。

2. 自己評価

- (1) 組織 学校評価委員会(校長、教頭、教務主任、首席教諭、各部長)
- (2) 開催 令和7年2・3月
- (3) 評価のために使用した資料
 - ①令和6年度教育アンケート(保護者)結果のまとめ(資料①を参照)
 - · 実施:令和7年1月
 - ・対象: 在校生の全保護者
 - ②令和6年度教育アンケート(教員)結果のまとめ(資料②を参照)
 - · 実施:令和7年1月
 - · 対象: 小学校教員
 - ③その他

 - ・令和6年度学校経営方針・入学試験5か年の出願状況
 - 令和7年度中学入試受験者合格者数

(4) 内容

- ①上の資料を基に、年度当初に教職員に示した「教育の基本方針と取り組みの重点」について、自己評価 を行った。(下表) ②自己評価に基づき、学校関係者評価委員会の資料を作成した。
- (5) 自己評価の結果
 - B. できた C. あまりできなかった D. できなかった) ・評価(A. よくできた)

目標と取り組みの重点(P)	取り組みの状況(D)	自己評価(C)
1. 落ち着きと明るさがいっぱい!		В
①挨拶・応答の指導の実施	- 「挨拶・応答、日本一」を掲げて、児童会執行部、生 活委員会、各学級による玄関などでの挨拶活動を実施し	ÛВ
・児童会によるスローガンを掲げ、校門での挨拶活動を中心に挨拶・応答力を高める。	た。児童会による新しい工夫はできなかった。 ・標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすることで、児童の意識向上に役立った。	
②正しく美しい言葉遣いの指導の実施		②B
・生活指導部を中心に、日々の敬語、「さん」・「ぼく、わたし」等の丁寧な言葉遣いの指導と評価を行う。	ようになってきている。 ・標語・ポスターコンクールに応募する機会を作り、応 募作品や入賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介	
③「立腰教育」の実施	を児童会主催で行う計画だったができなかった。 ・朝に「立腰タイム」を実施、授業中の指導も行った。 正しい姿勢で頑張れる児童は多いが、そうでない児童へ	③B
・1日の始まり、授業の始まり・終わり等で「立腰」を意識できる場を設け、習慣化する。		
望見通しをもって取り組む学校生活や 学習活動の実施		4 A
	・運動会では、児童会執行部が中心となってスローガン を決め、それに基づいて各クラスがめあてを決定し練習 に取り組んだ。学習発表会では、テーマを「『学びに向	
の力試しの場として、「運動会」「学習 発表会」「宿泊行事」等では実践力を鍛	かう力』発表会」とし、「学年・クラスのめあて」「見 通し」「振り返り」で取り組みを進めていき、自他のよ	
える。また、「体力づくり」「『縄ギネス』や『縄はげみ』」「マラソン大会」等も同様である。)	さ、学びの喜びに気付く活動となった。 ・「マラソン大会」に向けての取り組みはできたが、「『縄 ギネス』や『縄はげみ』」については、希望者が頑張る取 り組みとしたが、来年度もこの形で行くかの検討が必要で	
	ある。 ※教育アンケート:「学校経営方針『学びに向かう力』	
	が育つ学校に期待」保護者87.4%、教員90.5%	
2. 温かいまなざしがいっぱい!		В

①肯定的な児童理解に基づく肯定的な 言葉掛けの促進	・毎月のサポート会議では、配慮を要する児童や学級経営 についての共通理解を図った。また、学年ごとの課題やト ラブルについては、学年団で話し合い、全教職員への周知	ŪВ
・毎月の学級経営研修会で、配慮を要する児童や学級経営の共通理解と対応 の検討を行う。	と協力依頼を行った。 ※教育アンケート:「子どもの声を聴きながら」保護者	
②愛校心につながる集団活動の充実	88.0%、教員85.7% ※教育アンケート:「落ち着きのある安心できる学級作り」保護者89.2%、教員85.7% ・異学年との交流・親睦を図ることや、リーダーシップ	<u> </u>
	・	ØA
団のよさを感じる場の導入により愛校 心を醸成する。		
	※教育アンケート:「建学の精神」保護者89.2%、教員76.2%	
③ボランティア精神の育成の推進	※教育アンケート:「たてわり活動や宿泊活動」保護者 98.2%、教員90.5% ・校外学習の際は、清掃活動を行った。 ・2年生による1年生・年中児との交流会(お祭り)を	③C
・幼稚園等の異年齢の人たちとの関わりの中でボランティア活動を実施する。	実施した。 ・図書委員会による幼稚園児や保育園児への絵本の読み聞かせを実施した。	
④「学校いじめ基本方針」に基づき、 いじめの未然防止の組織的対応を改善	・全学年で盛んに行うことはできなかった。 ・週末・月末・学期末にアンケートを実施し、情報収集 に努めた。	<u> </u>
施とその情報収集の徹底を図る。	・年度最初に「いじめは絶対に許さない」という宣言を 行った。学級経営研修会では情報共有を行った。 ・子どもたちの関係をより深くより迅速に把握すること や保護者対応について、まだまだ検討すべき点が残った。	
・組織的な対応力について、毎月生活 指導部で実践的研究を行う。	・学年団での話し合いは行ったが、生活指導部、養護教諭なども加わったケース会議は限られた。	
⑤人権にかかわる教育の啓発の推進	※教育アンケート:「迅速かつ柔軟な指導体制による生活指導」保護者89.8%、教員95.2% ・各学年、年間計画に基づいて道徳科の授業を実施した。 ・各教科において人権の観点を取り入れた授業を行い、	⑤B
・各教科等と連動した道徳教育を推進する。 ・人権教育をテーマに授業参観により	全教員による人権教育の授業研究会を実施してきたが、 新たな取り組みができていないところに課題が残る。 ・児童会主催の「標語・ポスターコンクール (テーマ「み	
クールを実施し、児童・保護者の意識	んな仲良く」)」に応募する機会を作り、応募作品や入 賞作品の掲示・入賞作品の学校新聞での紹介をすること で、児童の意識向上に役立った。	
の高揚を図る。 3. 考える愉しさがいっぱい!		A
①「主体的・対話的で深い学び」の実 践的研究の推進	・「主体的・対話的で深い学び」について、各教員が授業で実践してきた。校内授業研究会を8回実施した。 ・「見通し・振り返り」活動をあらゆる学習に取り入れ、	ÛВ
究を行う。		
探る。	※教育アンケート: 「子どもの主体性が発揮される創意 工夫のある授業作り」保護者88.0%、教員81.0% ※教育アンケート: 「『学びに向かう力』を支える『メ	
て、「学びに向き合う力」が育つ視点から授業改善を行う。 	タ認知』の教育メソッド」保護者 7 7.8 %、教員 8 1. 0 % ・1 人 1 台のタブレットを、電子黒板、教材提示装置と	②A
・iPadや電子黒板、アプリ「ロイロノート」等を活用し、「主体的・対話	つなぎ、授業で活用できた。アプリ「ロイロノートスクール」の「ロイロ認定校」として、大阪府初の小学校となった。	
的で深い学び」につながる授業改善の 具現化を図る。	・「主体的・対話的で深い学び」につながる授業改善をアシストする I C T の活用を目指した。	
	※教育アンケート :「ICTの活用」保護者90.4 %、 教員95.2 %	[

③探究活動の実施	・宿泊活動では、3年生は「伝統工芸(筆・草木染め)」、 4年生は「大和川の分水」、5・6年生は「山と仕事・ 山と生き物・山と水」について調べ学習をした上で林間	3A
・宿泊活動で。総合的な学習の時間で。	学舎に臨んだ。 ・3年生以上で、外国の人とオンラインでつなぎ学習を	
	進める「世界探究」の授業を取り入れた。学んだことを もとに、学習発表会で3年生は劇を、5年生は発表を行った。	
④豊かな読書活動の実施	・読書記録(50冊分の読書が終わるごとに色の異なる カードが配付される仕組み)の実施と、100冊、20 0冊等、各到達冊数に至った児童名や上位者名を通信で	4 A
・武青記録を写りて励みにして武青石動を促進する。	の冊等、各到達冊級に至った児童名や上位有名を通信で知らせる工夫を行い児童の励みとした。学年ごとの城南課題図書(各学年20冊ずつ)読破をクラス全員が目標に取り組んだ。励ましの声掛けや読書量を増やす工夫を来年度も行っていく。	
	※教育アンケート:「読書指導」保護者88.6%、教員95.2%	
4. その他		В
かな指導の実施 ・「週2日の講習」「夏休みの特別講習」 「実力テスト」等を実施する。	・夏冬の講習、特別講習(6年生は月・水曜日に、5年生は3学期から実施)を行い学力の向上に役立てた。実力テスト(1~5年生1回、6年生5回)を実施し、6年生には個人データに基づく進路指導を行い、個々に応じた進路実現に役立てた。 ・4~6年生算数の3段階別指導を実施し、学力の向上	①B
・漢字・計算等の確実な習得の場を設ける。(「漢字の先取り学習、漢字・計	に役立てた。 ・3年生以上でAIを活用した復習アプリを導入し、学	
算等の復習を計画的に行う。」「漢字検 定」等の実施。)	力の定着に役立てた。 ・漢字の先取り学習(「読み」は4年生末までに、「書き」は5年生末までに習得)とともに、朝の計算を実施	
	き」は5年生末までに皆侍)とともに、朝の計算を美旭 した。各学期末・年度末に漢字・計算の復習を行った。 ・年間3回、漢字検定に取り組んだ。試験の月は、漢検 用の練習も行った。年度末には、該当学年級をほぼ合格 できた。更に、該当学年級よりも上の級にチャレンジし、 合格した児童もいた。	
	 ※教育アンケート:「朝の学習・昼の学習」保護者89. 2%、教員100%	
	2 / 0、	
	※教育アンケート:「先取り学習」保護者89.2%、教 員66.7%	
	※教育アンケート:「チャレンジテスト(実力テスト)」 保護者92.2%、教員61.9% ※教育アンケート:「放課後講習」保護者65.3%、教	
	員 7 6.2 % ※教育アンケート:「習熟度別学習」保護者 7 7.2 %、	
②校内研修の改善・充実化 -本校の 実態に応じた校内研修-	教員 5 7 . 1 %	②A
・授業改善のための校内研修 (6回の	加:年8回)を実施し、授業改善に役立てた。 ・学校経営方針「『チーム城南』で『学びに向かう力』	
動」)を実施する。	が育つ学校を創る!」をもとに、校内研修(12回 指導講師 校長)を実施し、教員の意識向上に努めた。	
内研修(12回 指導講師 校長)を	・8・12月に、全教員が外部研修会に参加できるよう にし、教員の研修に役立てた。 ・7・8・3月に外部講師をお招きして、「学級経営」	
	「授業改善」について学ぶことができた。 ・12月、「ロイロで繋がる広がる深まる学び」をテー	
	マに、本校で研修会を開催し、多くの学びを得た。 ・毎月放課後に「ロイロカフェ」を開催し、ICT や授業の工夫、学級経営などについて教員間の交流を深めた。 ・授業や学級経営における教員の指導力向上につなげる ため、更に内容を検討し、来年度も実施していく。	
	 ※教育アンケート:「学校経営方針を意識」教員100	
	% ※教育アンケート:「校外研修」教員100% ※教育アンケート:「校内研修」教員95.2%	
③幼小、小・中合同研究の実施	・7月、幼小教員で「メタ認知」についての研修会を、 また、幼小教員と中高教員の希望者で、「『子どもが安	<u>3</u> A

・幼・小の合同研究会、幼・小・中の合同研修会(7月)を実施する。	心できる』環境づくりを目指して!」の研修会を実施し 学び合うことができた。	
5. 附属保育園・附属幼稚園・附属中高・大阪総合保育大学との連携を進める	7017000	В
①附属保育園・附属幼稚園との連携 ・合同研究会、児童・幼児の交流を実施する。	・7月、幼小教員で「メタ認知」についての研修会を、また、幼小教員と中高教員の希望者で、「『子どもが安心できる』環境づくりを目指して!」の研修会を実施し学び合うことができた。 ・年長児対象の授業見学会を実施した。 ・2年生による年中児との交流会(お祭り)を行った。・図書委員会による絵本の読み聞かせを、保育園・幼稚園で実施した。 ・日、また、年少・年中児(3・4歳児)対象に親子での体験会(2月)や学校探検(3月)の案内を行った。・附属幼稚園年少・年中児保護者対象の授業見学会を実施した。また、年長児保護者対象の説明会を行った。(内部進学者:幼稚園12名、保育園1名、計13名)	①A
②附属中高との連携 ・合同研修会、情報交換会等を実施する。	・中学校との情報交換会を実施した。 ・中高の先生方による出張授業(理科実験)を行った。 ・中学校入試に際して、特待生の基準や内部推薦入試の 打ち合わせ、受験者についての情報交換を行った。 ・中高の教育内容をより知るための、他の関わりも検討 していく必要がある。(内部進学者1名)	②B
③大阪総合保育大学との連携 ・「大学の先生方の力を借りる。」等を実施する。	・大学の先生の指導による授業研究会や出張授業はできなかった。連携できる点を検討していく。	③D
6. 募集状況の改善を図る		В
①入学者数増のための改善課題を明らかにする。 ・私学として特長ある学校づくりについての課題を明らかにする。 ・広報の仕方等について課題を把握し、改善のための方策等を明らかにする。	・「私学として特長ある学校づくり」について、「『学びに向かう力』を育む教育活動の展開」を年間テーマとして、「チーム城南」で、「見える学校」→「育つ学校」→「信頼される学校」→「入学させたくなる学校」に結びつくよう、授業改善に取り組んできた。・「広報の仕方」について、在校児童と関わることのできるイベントにしていくことや、園児が体験できるイベントを増やすなど来校していただける機会を増やす方向で検討してきた。(体験入学・学校体験での在校生の活用や、「まなびのたからばこ」への新規ブースの出展などを行った。)更なる工夫をしていく。 (入試結果:志願者数微減、入学者数微減。)	①B

3. 学校関係者評価

- 学校関係者評価委員会(大阪総合保育大学学長、城南学園中学校・高等学校校長、城南学園幼稚園 園長、保護者会会長、同窓会城楠会会長、地域代表、校長、教頭、事務局長、教務主任、首席教諭、 (1) 組織 各部長)
- (2) 開催 令和7年3月26日(水)
- (3) 評価のために使用した資料 学校関係者評価委員会設置要綱、自己評価の結果及び学校評価委員会で使用した資料
- (4) 内容
 - ①管理職から自己評価の結果を報告し、質疑応答と協議を行った。
 - ②結果を学校評価委員会でまとめた。
- (5) 学校関係者評価委員会のまとめ
 - ①意見·感想等
 - (入学志願者を増やすために)
 - ・志願者が少なくなっていることを、逆に、「丁寧に見てもらえる。」というチャンスととらえて、取
 - り組んでいくとよい。
 ・1・4年生で一緒に長居公園へ行き活動していると聞いた。このような独自の取り組みについてメディアに連絡し取材してもらい、広報に役立てるとよい。
 ・中高で、ゆるキャラ「城希(キキ)」の着ぐるみを作製したので、広報活動で活用するとよい。

(教育活動について)

- ・児童や教師からの挨拶がぐっと増えた。 ・運動会、学習発表会と、感動するところがあってよかった。「見える化」の具体的な取り組みを続け

- ・自分の子どもの公立小学校では、1週間の「フリー参観」があり、1日見学できたので、検討してみ るとよい。
- ・学園の各部署が一緒になって、地域に貢献するための「地域との連携」ができると、「見える化」に つながる。
- ・子どもの質が上がっているように感じるので、何らかのボランティア活動を検討してみるとよい。・全学園を挙げてのボランティア活動(清掃など)を検討してみるとよい。
- ・大学との連携が少なかったので、インターンシップを検討してみるとよい。
- ◎前校長が亡くなられ、あとを受けた太田校長の熱い志を感じた。教職員がチームとなり、学園の各部署で連携し、「城南愛」でもってポジティブに進めようとしていることがわかる。大いに期待してい る。

②まとめ

「自己評価の結果」では、概ね「できた」との評価となったが、「ボランティア精神の育成の推進」、 「附属大学との連携」に課題が残った。これまでの活動を積み重ねていくとともに、新しい取り組みを

考え実践していく必要がある。

考え実践していく必要かある。
「入学者を増やすための工夫」については、複数回の「体験入学」、「入試対策会」などの実施、「まなびのたからばこ」などの新たなイベントへの参加、「ロボッチャ®」などの幼児対象親子勉強会の実施、「新たな幼稚園・保育園の開拓」とともに、より教育効果が高まるよう時程の刷新を行った。今後も新たな取り組みを模索するとともに、総合学園の強みをいかし、大阪総合保育大学や他部署の各専門家からのアドバイスを受けるなどの連携を図っていく。
在学児童の保護者の評価は高い一方、「わからない」という回答もあり、十分にご理解いただけていない項目もあることがわかる。これらのことから、学校の取り組みのより「見える化」を図り、子どもない項目をあることがわかる。これらのことがしていきない。

を通して実感・納得していただけるようめざしていきたい。 最後に、全教員が学校経営方針を日々意識しながら取り組んでおり、校内外の研修にも満足度が極め て高いことがわかった。教員が育つ学校から、子どもが育つ学校へと更に進めていきたい。

4. 今後の改善方策(Action) (令和7年度に向けて)

「学びに向かう力」が「育つ教室」 ~みんなでつくろう!「子どもが、先生が、『育つ学校』」~

(1)落ち着きと明るさがいっぱい!

- ①挨拶・応答の指導の実施
 - ・児童会によるスローガンを掲げ、校門での挨拶活動を中心に挨拶・応答力を高める。
- ②正しく美しい言葉遣いの指導の実施
 - ・生活指導部を中心に日々の「敬語、『さん』・『ぼく、わたし』等の丁寧な言葉遣いの指導と 評価を行う。
- ③「立腰教育」の実施
 - ・1日の始まり、授業の始まり・終わり等で「立腰」の場を設け、習慣化する。
- ④見通しをもって取り組む学校生活や学習活動の実施
 - ・あらゆる場において、めあてや振り返りの場を設け、主体的・対話的で深い学びにつながる教 育活動にする。

その力試しの場として、「運動会」「学習発表会」「宿泊行事」等では実践力を鍛える。 また、「体力づくり」「『縄ギネス』や『縄はげみ』」「マラソン大会」等も同様である。

(2) 温かいまなざしがいっぱい!

- ①肯定的な児童理解に基づく肯定的な言葉掛けの促進
 - ・毎月の学級経営研修会で、配慮を要する児童や学級経営の共通理解と対応の検討を行う。
- ②愛校心につながる集団活動の充実
 - ・たてわり活動において、リーダーシップ及びフォロワーシップを育み、集団のよさを感じる場 の導入により愛校心を醸成する。
- ③ボランティア精神の育成の推進
 - ・幼稚園等の異年齢の人たちとの関わりの中でボランティア活動を実施する。
- ④「学校いじめ基本方針」に基づき、いじめの未然防止の組織的対応を改善・充実・各学級での定期的なアンケートの実施とその情報収集の徹底を図る。・組織的な対応力について、毎月生活指導部で実践的研究を行う。
- ⑤人権にかかわる教育の啓発の推進
 - ・ 各教科等と連動した道徳教育を推進する。
 - ・人権教育をテーマにした授業参観により保護者啓発を実施する。
 - ・人権についての標語・ポスターコンクールを実施し、児童・保護者の意識の高揚を図る。

(3) 考える愉しさがいっぱい!

- ①「主体的・対話的で深い学び」の授業研究の推進
 - ・校内で6つの提案授業をもとに、「考える愉しさ」について校内で授業研究を行う。
 - ・「見通し・振り返り」活動をあらゆる学習に取り入れ、児童の意識の変容を探る。
 - ・各学級、各教科等の学習活動において、「学びに向き合う力」が育つ視点から授業改善を行う。
- ② I C T 教育の推進

- i P a d や電子黒板、アプリ「ロイロノート」等を活用し、「主体的・対話的で深い学び」に つながる授業改善の具現化を図る。
- ③探究活動の実施
 - ・宿泊活動や総合的な学習の時間などで実践を推進する。
- ④豊かな読書活動の実施
 - ・読書記録をつけて励みにして読書活動を促進する。
- (4) その他
 - ①進路実現のための個に応じたきめ細かな指導の実施
 - ・「週2日の講習」「夏休みの特別講習」「実力テスト」等を実施する。
 - 算数科での習熟度別指導を適時導入。
 - ・漢字・計算等の確実な習得の場を設ける。

「漢字の先取り学習、漢字・計算等の復習を計画的に行う。」「漢字検定」等の実施。

- ②校内研修の改善・充実化 -本校の実態に応じた校内研修

 - ・授業改善のための校内研修(6回の授業研究「考える愉しさのある学習活動」)を実施する。 ・「子どもが育つ学校」創りのための校内研修(12回 指導講師 校長)を実施する。 「児童理解」「授業と評価」「教師力」「探求とICT」等 テーマ
- ③幼小、小・中合同研究の実施
 - ・幼・小の合同研究会、幼・小・中の合同研修会(7月)を実施する。
- (5) 附属保育園・附属幼稚園・附属中高・大阪総合保育大学との連携を進める
 - ①附属保育園・附属幼稚園との連携
 - ・合同研究会、児童・幼児の交流を実施する。
 - ②附属中高との連携を
 - ・合同研修会、情報交換会等を実施する。 ③大阪総合保育大学との連携
 - - ・「大学の先生方の力を借りる。」等を実施する。
- (6) 募集状況の改善を図る
 - ①入学者数増のための改善課題を明らかにする。

 - ・私学として特長ある学校づくりについての課題を明らかにする。 ・広報の仕方等について課題を把握し、改善のための方策等を明らかにする。

(資料①)

教育アンケート(保護者)結果のまとめ(令和6年度末)

〇実施日 令和7年1月

保護者167名/202名 (無記名で回収・回収率82.7%) 〇調査対象

○結果の分析

- ※「肯定的回答(肯)」とは、アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」
- とを合わせた数値である。 ※「否定的回答(否)」とは、アンケートにおいて、「あまりあてはまらない」「まったく あてはまらない」とを合わせた数値である。

•「学校運営」

- 「1 建学の精神(「強く正しい。」「清くやさしい。」)を踏まえた教育が行われている。 (肯89.2%)」
- 「2 学校経営方針「『学びにむかう力』が育つ学校」には新たな教育の方向性が示されており、期待できる。 (肯87.4%)|
- 「3 学校は、伝統をふまえつつ新たな教育の方向性に向かって「チーム力」を発揮して取り組んでいる。 (肯89.2%)」

いずれも90%近くの肯定的な回答となっている。(2)(3)は、教育の方向性や学校運営について新しい評価項目であったため、保護者への説明が十分ではなく、否定的な回答が6~9 %あった。具体的な取り組みやその効果等について、様々な方法で発信して理解を得ていく。

・「安心・安全な教育施設等」

- 「4 避難訓練や監視カメラの設置、警備員の配置など危機管理に努めている。(肯93.4%)」 「5 施設・設備の環境整備は充実しており、清潔感がある。(肯98.2%)」 「6給食では、週5日の完全実施化を図り、アレルギー対応の安全管理に努めている。 (肯94.6%)
- 「7 地震や台風などの対応について、子どもや保護者に行動マニュアルが示されている。
- 「8 学校は、学級通信、懇談会、ホームページなどにより教育情報の提供に努めている。 (肯97.0%)」

いずれも肯定的回答が90%を超えている。更なるブラッシュアップを目指して取り組んでいく。|

「特色ある教育活動」

- 「9 たてわり活動や宿泊活動、礼法は、本校の伝統を踏まえた特色ある活動として期待できる。(肯98.2%)」「10 「学びに向かう力」を支える『メタ認知』の教育メソッドには、学力向上が期待できる。(肯77.8%)」「11 全学年における読書指導は、豊かな情操を育み、確かな言語力向上として期待できる。(肯88.6%)」「126年間の英語教育には、生きた対語の実活が思う。「126年間の英語教育には、生きた対し、生まずくりしまって期待できる。(第8.24%)」

- 「13 マラソン大会」や「なわ運動」は、体力づくりとして期待できる。(肯93.4%)」 「14 大阪府初『ロイロ認定校』など ICT の活用による教育活動の推進は、新たな教育として期待できる。 (肯90.4%)」
- (10) については、肯定的な回答が80%を下回っている。その内「分からない」が13.8%であることから、丁寧な説明のもと子どもの姿から成長が感じ取れるよう、創意工夫ある説明を 重ねていく。
- (12) については、肯定的回答が70.1%であった。「英語の実践力」に焦点化した新たな取 り組みを模索して、改善・充実を図っていく。

•「教師力」

- 「15 学校(教師)は、子どもの声を聴きながら、児童理解に努めている。(肯93.4%)」「16 学校(教師)は、落ち着きのある安心できる学級づくりに努めている。(肯90.4%)」「17 学校(教師)は、適宜連絡等などにより保護者との信頼関係の構築に努めている。
- (肯88.0%)」 「18 学校(教師)は、子どもの主体性が発揮される、創意工夫のある授業づくりに努めている。
- (肯88.0%)」 「19 学校は、迅速かつ柔軟な指導体制による生活指導に努めている。(肯89.8%)」
- (17) (19) については90%の肯定的な回答を得ているが、その他になると90%を下回る。 子ども理解については、担任を核としながらも学校全体で見守る柔軟な指導体制を構築し、家庭との連携を密にしつつ組織的に対応していく。

「『学びに向かうカ』が育つ場」

- 「20 Jonan Time (朝の学習・昼の学習)は、基礎的な学習の定着を図る場として効果的である。(肯89.2%)」 「21 Jonan Time での漢字や英語、キーボードレッスンは、個に応じた学びの場として効果的である。 (肯89.8%)|
- 「22 全学年での読み・書き・計算の習熟は、学びの基礎・基本の定着として効果的である。 (肯92.8%)」
- 「23 全学年での先取り学習は、中学受験にむけて効果的である。(肯89.2%)」
- 「24 4年以降の算数の習熟度別学習は、個に応じた学びの場として効果的である。 (肯77.2%)」
- 「25 全学年でのチャレンジテスト(実力テスト)や各学期末「復習月間」は、効果的である。(肯92.2%)」 「265年の3学期、6年での放課後講習や春・夏・冬の講習は、個に応じた進学指導の場として効果的である。 (肯65.3%)」
- (24) は、肯定的回答が80%を下回っており、「分からない」19.8%と極めて多い。 の放課後講習等の取り組みは70%を下回り、「分からない」が31.7%である。子どもの姿を通し て効果を実感できるよう、実施方法の更なる改善・充実を図る。

•「学校行事」

- 「27 運動会では、子どもの主体性が発揮されるための新たな創意工夫等が感じられる。(肯91.0%)」
- 「28 学習発表会では、子どもの表現力が発揮されるための新たな創意工夫等が感じられる。(肯89.2%)」
- 「29 「親子勉強会」は、親子で学び育て合うための機会となっている。(肯82.6%)」 「30 「進学ゼミナール」は、進路にむけた親子で学ぶ機会となっている。(肯77.2%)」
- (27) (28) は、90%前後の肯定的な回答となった。「学びに向かう力」の具現化を図る行 事であったが、そのねらいや具体的な子どもの姿から、一定の理解を得ることができたと受け 止めている。
- (29)(30)は、希望者が参加するイベントであるため、出席率を高めるための改善を図っ ていく。

•「総合力」

- 「31 我が子の成長が感じられ、本校の教育環境に満足している。(肯91.6%)」
- 「32 本校の教育環境には、知人等に入学を薦めるようなよさ(魅力)がある。(肯87.4%)」
- (31) (32) いずれも肯定的回答が90%前後と高い評価を頂いている。今後の志願者増につ <u>|なげるためにも、外部への発信の仕方について充実・改善していく</u>

今年度から新体制になり、それに伴い評価項目も大幅に改訂した。全項目について、概ね保

(資料②)

教育アンケート(教員) 結果のまとめ(令和6年度末)

〇実施日

令和7年1月

〇調査対象 教員21名/21名(常勤・無記名で回収・回収率100%)

○結果の分析

- ※「肯定的回答(肯)」とは、アンケートにおいて、「よくあてはまる」「あてはまる」
- とを合わせた数値である。 ※「否定的回答(否)」とは、アンケートにおいて、「あまりあてはまらない」「まったく あてはまらない」とを合わせた数値である。

「学校運営」

- 「1 建学の精神(「強く正しい。」「清くやさしい。」)を踏まえた教育が行われている。 (教員肯76.2%・保護者肯89.2%)」
- 「2 学校経営方針「『学びにむかう力』が育つ学校」には新たな教育の方向性が示されており、期待できる。 (教員肯90.5%・保護者肯87.4%)」
- 「3 学校は、伝統をふまえつつ新たな教育の方向性に向かって「チーム力」を発揮して取り組んでいる。 (教員肯76.2%・保護者肯89.2%)」

「学校運営」について、保護者からは(1)(2)(3)いずれも90%近い肯定的回答がある。 一方、教員からは、いずれも13ポイント低い。新たな方針(2)に対して90.5%の肯定的回答であるが、その運営方法として(3)「チーム力を発揮して」は76.2%である。新たな運営方針 (3) に取り組もうとしている結果として受け止めている。

「安心・安全な教育施設等」

- 「4 避難訓練や監視カメラの設置、警備員の配置など危機管理に努めている。 (教員肯47.6%・保護者肯93.4%)」
- 「5 施設・設備の環境整備は充実しており、清潔感がある。

(教員肯76.2%・保護者肯98.2%)」

- 「6給食では、週5日の完全実施化を図り、アレルギー対応の安全管理に努めている。 (教員肯100%・保護者肯94.6%)」
- 地震や台風などの対応について、子どもや保護者に行動マニュアルが示されている。 (教員肯76.2%・保護者肯95.2%)」
- 「8 学校は、学級通信、懇談会、ホームページなどにより教育情報の提供に努めている。 (教員肯90.5%・保護者肯97.0%)」
- (4)「避難訓練」では、保護者の93.4%に対して、教員からの肯定的回答は50%を下回っ ている。頻繁に起こる地震や災害等を鑑み、現状の取組の不十分さを痛感しているからである。 学校だけでなく学園として、災害時対応への準備なども見直していく。
- (6)「給食」では、教員100%、保護者も94.6%と高い。週5日給食実施化し、メニューも 刷新したことによるものである。

• 「特色ある教育活動」

- 「9 たてわり活動や宿泊活動、礼法は、本校の伝統を踏まえた特色ある活動として期待できる。 (教員肯90.5%・保護者肯98.2%)」
- 「10「学びに向かう力」を支える『メタ認知』の教育メソッドには、学力向上が期待できる。 (教員肯81.0%・保護者肯77.8%)」
- 「11 全学年における読書指導は、豊かな情操を育み、確かな言語力向上として期待できる。 (教員肯95.2%・保護者肯88.6%)」
- 「126年間の英語教育には、生きた英語の実践力向上が期待できる。 (教員肯57.1%・保護者肯70.1%)」
- 「13 「マラソン大会」や「なわ運動」は、体力づくりとして期待できる。 (教員肯76.2%・保護者肯93.4%)」
- 「14 大阪府初『ロイロ認定校』などICTの活用による教育活動の推進は、新たな教育として期待できる。 (教員肯95.2%・保護者肯90.4%)」
- (9)「たてわり活動や宿泊活動」(14)「大阪府初ロイロ認定校」では、教員、保護者とも9 0%を超える肯定的な回答があった。
- (12)「6年間の英語教育」では、教員57.1%、保護者70.1%と低い。「生きた英語の実践力向上」にむけた具体的な取り組みの「見える化」が弱く、その成果も測定しにくい状況があるという課題が明確になった。喫緊の課題として、新たな取り組みを構築したい。
 (13)「マラソン大会やなわごます」では、保護者の3.4%に対し、教員は76.2%と低い。こ
- れは、体力向上につながるような指導方法の充実・改善を図ろうとする課題意識の表れである

•「教師力」

「15 学校(教師)は、子どもの声を聴きながら、児童理解に努めている。

(教員肯85.7%・保護者肯93.4%)|

「16 学校(教師)は、落ち着きのある安心できる学級づくりに努めている。

(教員肯85.7%・保護者肯90.4%)」

「17 学校(教師)は、適宜連絡などにより保護者との信頼関係の構築に努めている。 (教員肯95.2%・保護者肯88.0%)」 「18 学校(教師)は、子どもの主体性が発揮される、創意工夫のある授業づくりに努めている。

(教員肯81.0%・保護者肯88.0%)」

「19」学校は、迅速かつ柔軟な指導体制による生活指導に努めている。 (教員肯95.2%・保護者肯89.8%)」

|教員よりも保護者の方が低くなっているのは、(17)「信頼関係の構築」と、(19)「迅速かつ 柔軟な指導体制」である。小学校に入ると主として子どもからの情報が主となり、保護者には 圧倒的に学校生活の様子が見えにくくなるという現実がある。基本として(15)「児童理解」や(16)「学級づくり」が充実することで解消されると考える。教員は(15)(16)については改善の余地があると受け止めており、(15)(16)(17)(19)は連動していることが分かる。問題行動などが生起した場合、家庭との連絡を密にし、学校全体の体制を構築し、「チーム」として 対応していく。

(18)「創意工夫ある授業」では教員は81%、保護者88%である。今後も引き続き教員研修 の充実を図り、教師力の向上を図る。

・「『学びに向かうカ』が育つ場」

「20 JonanTime (朝の学習・昼の学習) は、基礎的な学習の定着を図る場として効果的である。 (教員肯100%·保護者89.2%)」

「21 Jonan Time での漢字や英語、キーボードレッスンは、個に応じた学びの場として効果的である。 (教員肯81.0%・保護者肯89.8%)」

「22 全学年での読み・書き・計算の習熟は、学びの基礎・基本の定着として効果的である。 (教員肯90.5%・保護者肯92.8%)」

「23 全学年での先取り学習は、中学受験にむけて効果的である。

(教員肯66.7%・保護者89.2%)」

「24 4年以降の算数の習熟度別学習は、個に応じた学びの場として効果的である。 (教員肯57.1%・保護者肯77.2%)」 「25 全学年でのチャレンジテスト(実力テスト)や各学期末「復習月間」は、効果的である。

(教員肯61.9%・保護者肯92.2%)」

「26 5年の3学期、6年での放課後講習や春・夏・冬の講習は、個に応じた進学指導の場として効果的である。 (教員肯76.2%・保護者肯65.3%)|

(23)「全学年の先取り学習」(25)「チャレンジテスト」は保護者およそ90%に対し教員は6 (23)「エチ中の元取り子首」(23)「アヤレンシナスト」は保護者のよて90%に対し教員は00%と大きく差がある。保護者には「見える学力」としてとらえやすいであろうが、教員は、「学びに向かう力」の視点から捉え直して新たな課題を感じている。そのことが顕著に表れているのが(26)「放課後講習」である。教員76.2%に対し保護者65.3%である。塾の指導との差異化を図り、学校としての進路指導として指導体制も含め、大きな改善・充実を図る必要があると感じている。また、(24)「智熟度別学習」についても、教員57.1%、保護者77.2%といずない。 も肯定的回答は低い。これは、習熟度別による基礎基本の定着だけでなく、友達との学び合いの重要性が再評価されていることに起因する。一方、今年度から創設した(20)「JonanTime」では、教員100%、保護者89.2%と肯定的回答が高く、目的に応じて個別に学習方法を選択で きる、期待できる時間として受け止められている。

•「学校行事」

「27 運動会では、子どもの主体性が発揮されるための新たな創意工夫等が感じられる。 (教員肯95.2%・保護者肯91.0%)」

「28 学習発表会では、子どもの表現力が発揮されるための新たな創意工夫等が感じられる。 (教員肯95.2%・保護者89.2%)」

「29 「親子勉強会」は、親子で学び育て合うための機会となっている。

(教員肯95.2%・保護者肯82.6%)」 「30「進学ゼミナール」は、進路にむけた親子で学ぶ機会となっている。 (教員肯76.2%・保護者肯77.2%)」

(27)「運動会」(28)「学習発表会」には、今年度「学びに向かう力」が育つ行事となる ように創意工夫した結果、教員・保護者ともに高評価となった。

(30)「進学ゼミナール」では、保護者からは「分からない」という回答が19%あり、希望 者対象の行事であるので、出席者を増やす工夫の必要がある。

•「組織運営」

「31 職員会議は、適時方針等が具体的に示され、教職員の意識改革が促されており機能している。

(肯90.5%)」

- 「32 学年主任会議は、各学年の現状が共有され、6年間で育てるための方策等が話し合われており機能している。 (肯47.6%)」
- 「33 部長会議は、各分掌の進捗状況が共有され、課題解決に向けた方策等が話し合われており機能している。 (肯47.6%)|
- 「34 改革委員会は、新しい教育にむけた方策等を推進するため、企画・運営する場として機能している。 (肯76.2%)」
- 「35 校内研修は、学校独自の研究課題が設定されており、教師の日々の授業力向上につながっている。 (肯95.2%)」
- 「36 校外研修は、柔軟に受ける体制が充実・改善されており、教員の資質向上につながっている。(肯100%)」 「37 教員は、学校経営方針を意識して、日々の指導に取り組んでいる。(肯100%)」

学校運営の方針として(3)「チーム力」を明示されているが、これに対し(37)「学校経営方針を意識して」は教員100%の肯定的回答がある。新たな学校づくりにむけて教員が積極的に向き合いながら取り組んでいることが分かる。

(31)「職員会議」では、教員90.5%で、教員の意識改革を促す場として機能していることが分かる。その具現化として、(32)(33)(34)の各種会議であるが、各種会議後、主担者が他の教員とより共有を図ることが課題となっている。

(36)(37)「校内・校外研修」は極めて高い評価である。教育改革には教員の成長力が不可欠である。次年度も有意義な研修を校内外で実施し、実践的研究が恒常的に行われる学校をめざしたい。

総括

新たな学校経営方針が示され、めざす学校像「学びに向かう力が育つ学校」のもと、教員は前向きにとらえ、あらゆる教育活動の場で見直しを図っていることが分かる。その中で、大きな成果として、学校行事に新たな創意工夫が見られたこと、教員の校内外の研修に満足度が高まったことがあげられる。今後の課題としては、英語活動、進路指導、習熟度別指導がある。「チーム」として各種会議等を機能させながら、具体的に新たな方策等を示していく。